

## 副作用発現状況を聴取して術後鎮痛薬の変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、副作用の発現状況を聴取して、術後鎮痛薬の変更を提案することで、副作用症状を低減できたプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

▶左下葉肺癌に対して手術目的で入院された患者

#### 【術後鎮痛薬】

術後 3 日目まで：ロキソプロフェン錠 60mg 1 回 1 錠、1 日 3 回

術後 4 日目から：トアラセット配合錠 1 回 1 錠 疼痛時



H さん

### 術後 5 日目



H さん

H さん、こんにちは。お体の調子はどうですか。

新しい痛み止め(トアラセット)を飲んで吐き気がありました。痛みが少し残っているので、痛み止めは欲しいです。

そうですね。新しく始まったトアラセットという痛み止めは、飲み始めに吐き気が起きることがあります。これまで使用していた痛み止めに変更できるか、医師に確認してみましょう。



薬剤師



医師

H さんのことで相談があります。トアラセットの服用により吐き気が出ているようです。痛み止めに希望されているため、ロキソプロフェンに再度変更するのはいかがでしょうか。

そうですね。それでは、ロキソプロフェンに再度変更して、痛みの様子をみましょう。



薬剤師

その後、頓用の鎮痛薬は、トアラセットからロキソプロフェンに変更となり、疼痛・吐き気ともに発現なく退院となった。

患者の副作用状況を確認して術後鎮痛薬の変更を提案することで、副作用症状を低減し、薬物療法の向上に寄与できた。